

R6薬用作物産地支援 栽培技術研修 (つくば会場)

研究実施主体: 薬用作物産地支援協議会

受講対象者: 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的: 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員: 15名

研修実施場所: つくば国際会議場 (茨城県つくば市竹園2-20-3)小会議室405

実施時期: 7月18日(木)~19日(金)

| | 時間 | 研修科目 | 内容 | 講師 | 所属 |
|--------------|----------------------|---|--|-------------------------|---|
| 7月18日 (木) | 13:00-13:30 (30分) | 12:40現地集合 場所:つくば駅(つくばエクス プレス)前 移動(バス利用) | | | |
| | 13:30-15:00 (90分) | [現地研修] ソーラーパネル下での薬用 作物の栽培について(仮題) | 農業生産法人「水社の郷(みもりのさと)」の ソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)で のオタネニンジン栽培ほ場における現地研 修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注 意点、収穫、品質評価等について、今後の 支援に必要な知識・技術の理解を深める。 | 宇津野 孝行 路川 浩 柴田 敏郎 | 農業生産法人「水社の郷」 代表取締役 同上 同上 前・国立研究開発法人医 薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究セン ター客員研究員 |
| | 15:00-15:30 (30分) | 移動(バス利用) →つくば国際会議場 | | 事務局 | |
| | 15:40-16:40 (60分) | [講義] 薬用作物の実需者ニーズと 今後の国内栽培について (仮題) | 製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の 現状、国内産地化に期待する内容について 理解する。 | 日本漢方生薬製 剤協会 | 生薬国内生産検討班 兀下 敏幸 |
| 7月19日 (金) | 9:30-11:00 (90分) | [講義] 薬用作物の栽培技術にあ たって(仮題) | 実需者から要望の高い栽培技術について解 説する(オタネニンジン、トウキ等)。 | 柴田 敏郎 | 前・国立研究開発法人医 薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究セン ター客員研究員 |
| | 11:10-11:55 (45分) | [講義] 薬用植物資源研究センター の事業及び情報・資源の提 供について(仮題) | 薬用植物に関する国内唯一の総合研究セン ターである薬用植物資源研究センターの、栽 培・育種に関する研究開発、試験用の種苗 の分譲、また、薬用植物総合情報デー タベースを通じた各種情報提供等の取組み について紹介する。 | 吉松 嘉代 | 国立研究開発法人医薬基 盤・健康・栄養研究所薬用 植物資源研究センター長 |
| | 12:00-13:00 | 昼 食 | | | |
| | 13:00-14:30 (90分) | [情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成 における課題と対応 | 事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬 用作物産地形成に向けた課題について情報 交換を行うとともに、今後の産地育成支援の 進め方を討議する。 | 講師同席 | |
| | 14:30-14:50 | 閉会 | 研修に対する評価等についてアンケート調 査を実施 | 事務局 | |